

## 社会科学としての政治研究 1947～54

福島 新吾

はじめに

『専修大学社会科学研究所月報第 478 号』に「体験戦後史 1945～47」と題して敗戦後の体験などを述べた。引き続き発表の機会を与えられた事を深謝し、私の研究者としての出発期を回顧したい。私はこの国に初めて創立された東大社会科学研究所の助手となった（公募第一期）ので、その研究所は当時如何なるものであったのか、そこでは社会科学をどのように考えていたかをふりかえる。この研究所のお蔭で私の政治学研究には社会科学という frame of reference が加わった。私はそれを十分政治学に生かしたとはいえないが、少なくとも同世代の狭義の政治学者とはかなり違ったテーマ、視角、展望をとったと思う。そのいきさつが社会科学の発展史の参考になればと願う。他方世界政治の変遷とその日常生活への浸透にもまれつつ私の政治意識・国家意識あるいは愛国心・が変わっていった経過もふりかえってみたい。

## 目 次

はじめに .....	1
§ 1 東大社会科学研究所 .....	2
§ 2 その組織と活動 .....	5
§ 3 社会科学をめぐる対立 .....	9
§ 4 私が経験した調査・研究活動 .....	11
無産政党の選挙結果 .....	11
労働組合の調査・研究 .....	12
選挙の実態調査 .....	13
公安委員会調査 .....	14
農村調査 .....	15
§ 5 理論と実践 .....	18
§ 6 社会的活動 .....	20
編集後記 .....	24